

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
・「漢字を読む」は、どの学年もほぼ目標値の近似値か上回る結果となっている。 ・「物語の内よを読み取る」は、ほぼ目標値の近似値か目標値を上回る結果となっている。	・「調べたことをもとに文章を書く」は、「自分の考えとそれを支えている事例との関係を明確にして書いている」「目的に応じて、文章を簡単に書いている」の項目において、大きく目標値を下回っている。 ・「漢字を読む力」は目標値に近い数値となっているが、「漢字を書く力」は目標値を大きく下回っている。「漢字を書く力」の育成が課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽どの領域においても目標値を下回っている。特に「書くこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は目標値を下回っており、大きな課題である。 ▽「漢字や文章を書く」問題の正答率が著しく低い。		
第5学年	△「言葉の学習」のことわざや行動を表す語句などの定着が見られた。また、「物語の内容を読み取る」では、目標値を上回っている項目が多かった。 ▽「漢字を書く」が目標値を下回り、「説明文の内容を読み取る」の内容を捉えることや中心となる語を見付け要約すること、自分の考えを書くこと等に課題がある。	△「話し合いの内容を聞き取る」領域では、目標値を上回っている。 ▽「漢字の読み書き」及び「文章を書く」領域において、目標値を下回っている。特に、「指定された長さで文章を書くこと」「自分の考えを明確にして書くこと」に課題がある。 (第4学年時)	
第6学年	△「情報の扱い方に関する事項」領域では、前年度の正答率から大幅に上がり、目標値と同等の正答率であった。 「文章を書く」領域は、目標値を下回っていた。タブレット端末等の便利なツールで文章を書くだけではなく、実際に手書きで書く力を養うことも大切にしたい。	△「文章を読む」領域では、ほとんどの項目で目標値を超える、または目標値と同等の正答率であった。 ▽「文章を書く」領域は、ほとんどの項目で、目標値を下回った。指定された条件で文章を書いたり、自分の意見と理由を明確にした文章を作成したりする力を付ける必要がある。	△「文章を書く」領域で目標値を大きく超えていて昨年度の改善プランの成果が見える。 ▽近似値ではあるが、「漢字を書く」領域が目標値を下回ったので、授業改善プランに加えたい。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・読み、書きともに漢字の習得率が極めて低い。また、促音の表記が苦手。 ・話し言葉、書き言葉を分けて文章を構成できない。 ・語彙に乏しく、正しい日本語を使えていないこともある。	・相手に伝わるように理由や事例を挙げて話すことや相手の意見を最後まで聞くことに課題がある。 ・話し合いの場面では、相手の意見を聞くことができていなかったり、自分の考えをもつことができていなかったりする児童も多い。	・既習内容を生活に活用しようとする意欲が低い。しかし、学習全体に対する意欲は高い。
高学年	・漢字及び言葉に関する項目は、おおそ目標値の近似値に位置した結果であった。しかし、「漢字を書く」では目標値を下回った。	・5学年は物語文の読み取りは概ね目標値を上回ったが、説明文や記述問題では概ね目標値を下回った。 ・6学年は、説明文や物語文どちらの文章の読み取りは、概ね目標値と同等か目標値を上回った。	・「文章を書く」領域で、無回答が大きく増える。粘り強く設問に取り組むことが課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	・生活の中で必要となる語彙を増やす活動を取り入れる。 ・言葉集めや文作りを通して、文字学習の基礎作りを行う。 ・漢字の学習を中心に習熟のために、ドリルやタブレット端末のアプリを活用して、基礎基本の定着を図る。	・関連図書を活用して、図鑑づくりや調べ学習に取り組み、学んだことを生かして活用していく。 ・考えを発表するときに、理由とともに述べることを習慣付ける。 ・ペア、小グループでの話し合い活動を取り入れ、話型を活用しながら自分の思いを表現できるようにさせていく。	・既習事項や児童の語彙力、興味の範囲を生かした教材を用意し、提示の工夫をすることで、自分の意見をもてるようにする。 ・児童が興味をもち、学習のゴールを明確にもてるように、ICT機器などを活用し、学習計画を共有する。
中学年	・朝学習で、漢字の反復練習に取り組む。 ・週に1回程度、自主学習や日記を宿題に出し、語彙力及び漢字の習得率の向上を図る。	・児童が見える場所に、「話し方」、「聞き方」を提示し、適宜指導していく。 ・説明文の要約をする活動や俳句を詠む活動、作文等を通して、文章を書く機会を増やし、自分の考えを表現する力を高める。	・日直のスピーチやテーマトーク等を通して、みんなの前で発表したり、自分の考えを表現したりする力を伸ばしていく。
高学年	・漢字を正しく書けるよう毎日学習で取り組んだり家庭学習に課したりして、読み書きの日常化を図る。また、文章を書く時には、既習漢字を使って書くようにする。 ・漢字のミニテストなど反復して行い、知識・技能の定着を図る。	・文章の作成に慣れるよう、文章を作成する際に文章構成の型をいくつか提示することで、書くことに慣れるようにする。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げられるよう、授業内でグループ交流の時間を設定する。	・表現する楽しさを感じられるよう、表現の工夫を見つける活動をしていく。 ・書いた文章は児童同士で推敲し合う時間を意図的に設け、よい文章にしていこうとする態度を育成する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
・フィールドワークや地図記号カルタ、都道府県カルタなどを活用することは、社会的事象に対する意欲を高めることに効果があった。 ・資料の見方や着目するポイントを抑えることで、資料の意図を捉える意識が高まった。	・資料から分かったことをまとめたり、活用したりすることが難しい。 ・社会的事象を通して、思考を深めたり、自身の考えをもったりできる児童が少ない。 ・基本的な知識の定着ができておらず、各学年目標値より10%ほど低い値になっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽全ての項目で目標値を下回っている。 ▽「地域や市の様子」「生産や販売」の項目は、目標値に比べ10%程度目標値より数値が低く、特に低い項目となっている。		
第5学年	△「都道府県の様子」の地形と産業の問題の正答率は、目標値を上回っている。 ▽上記以外の問題の正答率は、目標値に対して下回る数値が多く、特に資料を基に考える問題が低かった。	△「工場の仕事」の資料問題の正答率は、目標値を上回っている。 ▽上記以外の問題の正答率は、目標値に対して下回る数値が多かった。 (第4学年時)	
第6学年	▽すべての領域において目標値を下回っている。特に、「工業生産」「産業と情報の関わり」の項目は目標値を大きく下回った。	△「愛知県の工業の様子」や「特色ある産業」の資料問題は目標値の近似値である。 ▽それ以外の問題については目標値を下回った。	▽安全なくらし、市の様子の移り変わりの理解、思考・判断の問題の正答率が目標まで達していない。 ▽資料を読み取り表現したり、考えたりする問題の正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・「方位」などの社会的用語が身に付いていない。 ・地図やグラフの読み取り、正確に位置や数値の読み取りに課題がある。 ・資料の要点を読み取りに課題がある、資料整理やまとめることに課題がある。	・課題に対して、適切な資料を選び出す（比較など）のが苦手。 ・複数の資料を活用して考えることが苦手であり、資料を活用した思考・判断に課題がある。 ・自身の考えていることを、適切に表現する手段に乏しく、自身の考えをまとめることが難しい。	・インタビュー、発表へ向けて協働的に学ぶ意欲はある。 ・出前授業や見学等で調べることには、意欲的であり、積極的に調べようとしている。
高学年	・5学年においては、地図から読み取ってまとめたり、読み取ったりする問題が特に正答率が低い。 ・6学年においても、6大陸3海洋の位置や名称や各産業の社会的用語を問う問題の正答率が低い。	・5学年では、「生活環境を支える活動」の領域で、知識技能の定着は見られるが、思考の目標値が下回っている。 ・6学年では、「日本の工業生産」の領域で目標値を大きく下回った。知識を活用に課題がある。 ・5学年も6学年も資料を読み取って正しく判断する問題の正答率が低い。	・解答形式が記述や作図である問題の無回答の割合が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・資料を読み取る際に、用語を確認し、グラフの見方や地図を見る際の視点を確かめたりすることで、資料の要点を捉える技能を身に付けられるようにする。 ・効果的なまとめ方をしている児童を紹介し、適切に資料を整理することができるようにする。 ・テストの返却の際は、正答を確認して、知識を定着させる。	・複数の資料を提示する際には、意図的に内容を絞って提示することで、正確に資料を読み取り、思考が深められるようにする。 ・考えをもつ時間と、共有する時間を授業の中に設けることで、積極的に考えをもち、持った考えを共有できるようにする。	・授業の導入の際に、意欲が高まるような資料を準備したり、身近な生活経験を想起できるような問いを出したりすることで、学習意欲を高めていく。 ・単元の中で、ゲストティーチャーや見学等ができる際には、積極的に取り入れ、体験的に学習を行うことができるようにする。
高学年	・おさえるべき社会科用語は確実に板書きし、単元後には、単元を振り返られるようなプリントなどに取り組み、既習事項が理解できているか確認する。 ・地球儀やグラフなどの具体的な資料を活用し、資料を読み取る技能を身に付けるようにする。 ・テストの返却の際は、正答を確認して、知識を定着させる。	・資料の読み取りでは、様々なグラフや表の見方や考え方を指導するとともに、共通部分や相違部分に目を向けさせることで、資料を読み取る力を育てていく。 ・資料集や地図帳などの補助教材は常に身近に用意し、学習の中で意図的に活用していく。 ・課題解決できたことを、小グループや全体で意見し合う時間を意図的に設けて、思考を深めていく。	・導入を工夫して、学習に見通しがもてるようにする。 ・単元の終末では、ICTなどを使って単元のまとめ方を工夫する。まとめ方は単元の導入や中盤までに児童と合意形成を図り、学習が自分事になるようにしていく。 ・意図的に動画を活用して、社会的事象の関心が深まるようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
・5分間プリントに取り組むことにより、既習内容の定着が不十分だったことに気付いたり、計算の仕方を確認したりすることができた。 ・タブレット端末の活用により、個に応じたペースで学習をすすめたり、自主的に取り組んだりできるようになった。	・基礎・基本の課題を確実に正答につなげる力を付ける必要がある。特に計算力を高めたい。 ・文章問題を正確に読み取る力、数直線や図を活用して演算を決定する力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	△「表と棒グラフ」の問題は目標値を上回っており、データの活用能力は、他の領域と比べて身に付いている。 ▽「数と計算」「図形」「測定」の領域は目標値を下回っており、特に「計算」の領域が目標値を下回り大きな課題である。		
第5学年	△「数と計算」の領域の内容は、数の表し方のみ目標値を上回った。 ▽すべての領域において目標値を下回っている傾向にある。特に、「わり算」「小数と分数の計算」「変わり方調べ」の項目は目標値を大きく下回った。	△「数と計算」の領域の内容は、概ね目標値を上回った。特に、かけ算の項目は目標値を大きく上回った。 ▽「図形」「測定」「データの活用」の領域の内容は、全て目標値を下回った。特に、「円と球・三角形」の項目は目標値を大きく下回った。	
第6学年	▽すべての領域において目標値を下回っている。特に、「小数の計算」「分数の計算」「割合」「立体と体積」の項目は目標値を大きく下回った。	▽全ての項目で目標値を下回った。特に、小数のわり算は、目標値を大きく下回った。	▽たし算と引き算の正答率が高いが、かけ算とわり算の正答率が低い。 ▽図形の定義を問う問題の正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・四則演算、特にわり算が課題である。まずはかけ算九九をしっかり定着させる必要がある。 ・器具の操作に課題があり、正しく使うことができない児童が多い。	・問題の題意を読み取ることができず、立式や正しい答えを求めることができない。 ・問題場面をテープ図や線分図等に表すことに課題がある。	・算数が苦手な児童も前向きに学習に取り組んでいる。 ・既習事項を活用した学習を取り入れながら、算数に対する意識を高める必要がある。
高学年	・小数第二位の計算、余りのあるわり算、通分や約分が特に課題である。計算のきまりや手順を理解し、正しく計算する力を付ける必要がある。 ・伴って変わる2つの数量関係を式に表すことに課題がある。	・文章中の数量関係を正しく読み取れない読解力の不足が課題である。 ・「割合」「円グラフ・帯グラフ」では、割合やデータを活用する問題の正答率が低い。	・記述問題では無回答が増える。発展的な問題になると、より無回答が増えるため、「問題を読み取ってみよう」「式を考えてみよう」という意識を高める必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	・授業の始めに5分間トレーニングプリントを行い、既習事項の定着と、計算技能の向上を図る。 ・量を予想してから比べたり測定したりする活動を取り入れ、測定技能を高め、量感を養う。生活の中で時計を意識させ、時刻や時間についての理解を深める。	・文章問題の「分かっていること」や「求めること」に線を引かせたり、図や半具体物を活用したりして、問われていることを正確に理解させる。 ・半具体物や図、数直線の活用の仕方を身に付けさせ、計算の仕方や手順、考え方を自分なりに説明する力の向上を図る。	・単元の内容や児童の実態に応じて、グループ編成や教材等を工夫する。 ・ペアでの話し合い、グループ活動、全体での練り上げなど、様々な形態を取り入れ、協働的に楽しく学べるようにする。 ・ICTを取り入れ、児童の興味、関心を高める。
中学年	・授業の導入で、前時の振り返りや5分間プリントに取り組むことで、既習事項について振り返り、知識の定着を図る。 ・コンパスや分度器といった、器具を使う活動を多く取り入れ、正しい使い方が身に付くようにする。	・題意を掴むことができるように、「文章に線を引くこと」や「分かっていることの確認」等に取り組む。 ・問題場面を図式化する活動を多く取り入れ、こどもたち一人一人が場面を頭の中で具体的にイメージしたり、正しい図で表したりすることができるようにする。	・意欲を継続することができるよう、スモールステップを意識した学習の流れを設定し、自信につなげることができるようにする。 ・習熟の段階に応じて、プリント学習やタブレット学習を取り入れて、個に応じた学習が進むようにする。
高学年	・学習の始めに5分間トレーニングプリントを行い、基本的な計算問題の定着を図る。誤答が多い問題は簡単に解説し、理解を深める。 ・数直線の書き方や、数直線を活用した数量関係の見方を理解させる。	・問題文の中の数値や条件を一文ずつ整理し、図や表に置き換える活動を通して、文章の意味を的確に読み取る力を育てる。 ・割合に関係する単元では、常に1あたりの量に着目させる。比例関係を表す表や数直線を活用して、立式したり式の根拠を説明したりできるようにさせる。	・単元や毎時間の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをし、「できた」「分かった」を実感させていく。 ・習熟の段階に応じて、プリント学習やタブレット学習を取り入れて、個に応じた学習が進むようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
・「問題設定→予想→学習計画→観察・実験→結果の確認→考察」といった、思考の流れを確立したり、結果を基に考察する際にグループ協議の場を設定したりしたことで、考える力の向上につながった。 ・4・5年生では「物質・エネルギー」領域で昨年度の平均を上回り、5・6年生では「生命・地球」領域で昨年度の平均を上回った。	・昨年度の校内平均を上回った領域もあるが、どの学年・領域も目標値には達しなかった。基礎・基本の知識の定着が必要である。 ・活用領域の問題の正答率が著しく低い、思考力を伸ばしたり、事象と事象との関連を考えたりする力を伸ばしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽どの領域も目標値を下回っている。特に「物質・エネルギー」領域の正答率が46%程と目標値を大きく下回った。 ▽基礎的な問題も正答率が低いが、活用問題の正答率が著しく低い。		
第5学年	△「植物の成長」や「気温と動物の活動の様子の関係」の問題では、正答率が目標値に達していた。 ▽それ以外の問題の正答率は、目標値に対して下回った。	△「身近なしぜんのかんさつ」における基礎的な問題では、正答率が目標値を上回った。 ▽それ以外の問題の正答率が低い。特に活用問題や記述問題の正答率が低い傾向にある。	
第6学年	△「人の誕生」に関する内容の正答率が高く、目標値に近付いている。 ▽それ以外の問題の正答率が低い。基本的な語句や内容を覚えることを大切にしたい。	△「観察カード」のかき方に関する問題の正答率が目標値を上回った。 ▽「生命・地球」領域に関する正答率が低い。特に活用問題や記述問題の正答率が低い傾向にある。	△「こん虫のからだのつくり」と「棒温度計のメモリの読み方」に関する内容の正答率が高い。 ▽「方位磁針の使い方」に関する正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・教科書に書かれている内容や理科的用語を理解していない児童が多い。	・既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を考えたり、表現したりすることができていない。 ・得られた結果を基に考察し、表現する等の問題解決をする力が身に付いていない。	・単元によって、関心があるものとそうでないものにばらつきがある。 ・単元について学んだことを学習や生活に生かそうとしていない。
高学年	・年間を通して継続的に行う観察等は、その都度注意点を確認したり、何度も経験したりするため、よく理解している。 ・実験に使用する器具、機器の使い方や実験の結果などは、実感の伴った理解を深めていく必要がある。	・事象がなぜ起こるかといった理由を結果と合わせて確認し、考察する力を伸ばしていく必要がある。 ・実験で起きた事象だけでなく、日常にどのように応用、活用されてするかについて考えていくことが課題である。	・前年度より正答率の上昇が見られたが、目標値よりは下回っている。 ・無回答の割合が高く、関心があるものとそうでないものにばらつきがある。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・プリントや動画教材等を活用して、既習事項の定着を図るとともにテスト前に復習の時間を取る。	・「問題設定→予想→学習計画→観察・実験→結果の確認→考察」の学習の流れを、どの単元でも確立し、思考の流れを確立する。 ・予想や考察の書き方や考え方を確認し、書き方や考え方に慣れていく。	・より興味関心をもつことができるように、他教科や生活と関連付けたり、実物に触れる機会を増やしたりすることで、より一層興味関心を高める。 ・キーワード等を示しながら、児童自身が文章としてまとめる学習形態を継続的に取り入れる。
高学年	・生活実感を伴った理解を深めるために、実験用具や機器の実物に触れ、操作する機会を増やす。	・問題設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などは、最初に個人で考える機会を設けることで、自分の考えをもって問題解決に臨む力を養う。 ・考察場面においては結果の数値等をもとに、結果からどのようなことが考えられるか、グループで協議する時間を設け、理科的な視点を意識して考えることができるようにする。	・実物に触れる機会を増やすことで、より一層興味関心を高める。 ・学習の見通しや振り返りを、どの学習でも同じ流れで行うことで、自身の学びや変容を自覚できるようにする。 ・振り返りを通して、自身の学びを自身の言葉で振り返る機会を積み重ね、考えを表現することへの自信が高まるようにする。

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・花や野菜を育てる活動を通して、植物の生長の様子や変化に気付くとともに、親しみをもって大切にすることが、できるようになった。
- ・おもちゃづくりやものづくりを通して、試行錯誤をしたり、授業協力者に助言をもらったりしながら、よりよいものにしようという気持ちや態度が育ってきた。
- ・自分自身の成長に気付くとともに、自分の成長には様々な人々が関わっていることに気付き、感謝の気持ちを伝えることができた。

(2) 課題

- ・言葉で相手に分かりやすく表現しようという意識や技能が十分に身に付いていないため、表現方法を具体的に提示し、学習に活用できるようにする必要がある。
- ・季節や植物の変化、身近な人々との関わりについて直接的な経験や体験が少ないため、体験的な活動を意図的に計画する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・朝顔の観察、生き物探しの活動を設定し、植物や生き物に触れ、よさや特徴に気付けるようにする必要がある。 ・四季の特徴を生かした遊びを通して、四季の特徴やよさに気付ける必要がある。	・植物や生き物の変化や成長の様子のポイントを意識させるため、観察の際に視点を明確化する。 ・思いや願いの実現に向けて、「何をするのか」「どのようにするのか」と、活動のめあてを立て、学習の中でその都度めあてを確認し、意識させる。	・積極的に体験活動や地域の人々と関わりをもつ活動を意図的・計画的に取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・おもちゃづくりでは、それぞれの素材について、何でも触れて遊ぶことで、動きの面白さや不思議さに気付き、工夫へとつなげていく必要がある。	・継続して植物や生き物の世話や観察に取り組ませることにより、その変化や愛情や面白さを感じさせることで、命の大切さに気付かせる。 ・観察ポイントを提示し、表現の方法を例示することにより、多様な表現方法に触れ、考えや思いを表現できるようにする。	・体験的な活動を行うときに、相手意識をもって活動できるように、ゴールを設定し、児童が意欲的に活動できるようにする。 ・体験活動では、地域や企業の方々を授業協力者として関わり、試行錯誤しながら取り組むことができるよう工夫する。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペア学習や少人数歌いなどを取り入れ、友達と関わりながら主体的・協働的に学ぶ姿が見られるようになってきた。
- ・振り返りを次時の学習に生かしたり、これまでの学習の積み重ねを実感させたりすることができた。
- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの基本的な技能を丁寧に指導し、楽器演奏の技能を伸ばすことができた。

(2) 課題

- ・どの学年でものびのびと心を開放して歌唱表現に取り組めるように、安心して表現活動ができる場づくりや、基本的な技能の積み重ねを丁寧に指導する。
- ・音楽を形づくっている要素（音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組み）を手掛かりに、楽曲について理解したり、表現を工夫したりできるようにする。
- ・楽曲の特徴をもとに、どのように表現するかについて思いや意図をもち、それを表現の工夫に生かして歌ったり演奏したりすることができるようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・リズム遊びやふし遊びを積極的に取り入れ、楽しみながら音感、リズム感を身に付けられるようにする。 ・鍵盤ハーモニカの指導では、スモールステップで課題を設定し、達成感をもたせながら技能を身に付けられるようにする。	・音や曲に合わせて、手拍子や身体表現をさせ、即興的な表現活動に親しませるようにする。 ・発表したり、聴き合ったりする活動を取り入れ、音楽表現のよさを感じ取れるようにする。	・いろいろな音楽を聴いたり歌ったりすることで、音楽への親しみをもたせる。 ・様々な楽器に触れさせ、興味関心を高め、楽しみながら音楽活動に取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分がしたい表現ができる力を身に付けられるように、常時活動などを通して、基礎的な歌唱や演奏の技能、音楽に関する知識を継続的に指導し、積み重ねていく。 ・音楽を形づくっている要素に着目しながら、楽曲の特徴を捉えられるようにする。	・音楽を形づくっている要素をもとに、楽曲のかんじに合った歌い方や演奏を工夫し、曲想に合った表現ができるようにする。 ・音楽を形づくっている要素を手掛かりに、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら聴くことができるようにする。	・友達と関わって学習する場を大切にして、互いに認め合い、高め合いながら主体的に表現活動に取り組むことができるようにする。 ・児童の実態に合った学習のねらいを設定し、どの子もわかる、できる授業をする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分がしたい表現ができる力を身に付けられるように、常時活動などを通して、基礎的な歌唱や演奏の技能、音楽に関する知識を継続的に指導し、積み重ねていく。 ・音楽を形づくっている要素に着目しながら、楽曲の特徴を見付け、歌詞や曲想との関わりに気付くことができるようにする。	・音楽を形づくっている要素をもとに、歌い方や演奏をどのように工夫するかについて思いや意図をもち、曲想に合った表現ができるようにする。 ・音楽を形づくっている要素を手掛かりに、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら、曲全体を味わって聴くことができるようにする。	・ペアやグループ活動、友達の表現を聴き合う活動を取り入れるなどして、互いに認め合い、高め合いながら主体的に表現活動に向かうことができるようにする。 ・児童の実態に合った学習のねらいを設定し、どの子もわかる、できる授業をする。

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・丁寧に細かく説明をすることで、児童が実践し、正しく道具を扱えるようになってきている。
- ・作品や制作を提示しながら説明をすることで、児童が理解しやすくなり、見通しをもって制作できるようになってきている。
- ・昨年度に比べて、児童の授業規律がより定着してきているため、集中して作品制作に取り組めるようになってきている。

(2) 課題

- ・正しく道具を扱えない児童がいる。低学年から道具の正しい使い方を指導するとともに、繰り返し指導を積み重ねて、定着させていく必要がある。
- ・説明を集中して聞くことができないため、制作方法がわからない児童がいる。制作手順や注意点を黒板に示す、個々に声かけをするなどして、学習に取り組める環境を整える必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・はさみやのりなどの正しい使い方について、ポイントを掲示するなどして繰り返し指導し、身に付けられるようにする必要がある。 ・絵の具道具やカッターなど、小学校で新たに使用する道具については、使い方や安全指導を一つ一つ丁寧に指導する必要がある。	・自分の発想を表現しやすいように、見本を用意したり、よい表現を共有したりする。 ・表現に迷う児童には個別に指導を行う。 ・作品の鑑賞については、めあてに基いた観点を意識させながら、よさを見付けさせていく。	・児童が、意欲的に活動できるように導入でのワクワク感を大切に。また、どのように取り組めばよいかの、手順や完成の見本などを掲示し、見通しをもって取り組めるよう工夫する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が安全に正しく道具を扱えるよう、道具の使い方やポイントを丁寧に説明し、授業ごとに安全指導を徹底する。使い方が間違っている児童には、その都度指導を行う必要がある。	・自己の表現を十分に表すことができるよう、制作する上での注意点を事前に説明し、黒板に掲示する。 ・一人一人の児童が自信をもって表現できるよう個別指導を行い、鑑賞のルールを守れるようにする。	・児童が安心して主体的に安全に取り組めるよう、図工の約束を示し、守れるようにする。 ・見本作品や制作方法を掲示することで、児童が見通しを持って制作できるよう工夫する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が安全に正しく道具を扱えるよう、道具の使い方やポイントを丁寧に説明し、授業ごとに安全指導を徹底する。使い方が間違っている児童には、根気強く指導を行う必要がある。	・自己の表現を十分に表すことができるよう、制作する上での注意点を事前に説明し、黒板に掲示する。 ・一人一人の児童が発想を広げられるよう個別指導を行い、鑑賞のルールの徹底を図る。	・児童が安心して主体的に安全に取り組めるよう、図工の約束を示し、徹底を図る。 ・見本作品や制作方法を掲示し、見通しを持って制作できるよう工夫する。

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験的な活動を導入し、児童が楽しく取り組めるよう工夫したことで、学習意欲の向上や知識や技能の定着に結びついた。
- ・教科書やICT 端末を活用したことで、調理器具の正しい使い方の理解が進んだ。

(2) 課題

- ・授業で学んだことを、日常的に家庭生活で実践する活動が乏しかった。宿題等を出し、生活場面での実践力を高めていきたい。
- ・手縫いなどの技能については、以前習熟差が大きい。休み時間等を活用し、個別指導を行う必要がある。
- ・体験活動の機会を多くもたせることで、知識技能の定着を促す必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・正しく器具や道具を扱えるように動画や実演などで、使い方やポイントを丁寧に説明する。 ・個別指導を行う等、技能の向上を図る。 ・実習の際には学校ボランティアを活用し、個別指導を行う等、技能の向上を図る。	・自分の考えを表現しやすくなるように、例を示したり、グループで話し合ったりして、一人一人が発表する場を設け、個人の意見を全体で共有できるようにする。	・自分の生活についてふり返り、自ら課題を見付けられるようにする。 ・完成作品や制作方法等を提示し、見通しがもてるよう工夫する。

(2) 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5学年での既習事項の定着、動画や実演などで、道具の使い方やポイントを丁寧に説明する。 ・器具や道具の扱いについては全児童が実践し、基礎知識の定着を図る。 ・実習の際には学校ボランティアを活用し、個別指導を行う等、技能の向上を図る。	・自分の考えを表現できるように、手がかりを示したり、グループで話し合う場を設けたりして、個人の意見を全体で共有できるようにする。	・自分の生活について振り返り、自ら課題を見付けられるようにする。 ・完成作品や制作方法等を提示し、見通しがもてるよう工夫する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・発達段階や実態に応じて目標とする技能を明確にし、学習カードやタブレット端末を活用して指導を積み上げた。
- ・児童が体を動かす機会を確保するため、休み時間や朝遊び・放課後遊びで体を動かせる時間を増やすことができた。

(2) 課題

- ・区教研体育部での授業実践を学校全体に広め、個別最適な協働的な学びを推進していく。
- ・体育学習を充実させるための教具を揃えたり、授業事例の共有・活動の場を増やしたりしていくことで、児童が体を動かす楽しさを実感できるようにする。
- ・課題に応じて、年間を通して行える活動を取り入れて、体力向上を促せるようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各単元における主運動に繋がる運動を、導入で取り入れる。 ・苦手意識がなくなるよう、誰でもできる簡単な動きを取り入れる。 ・遊びの要素を取り入れた運動をすることで、楽しく多様な動きができるようにする。 ・手本を見せたり手本をさせたりするなど、動き方を視覚的に理解できるようにする。	・運動に楽しみながら取り組めるよう、学習カードを活用して、めあてをもって臨んだり、振り返ったりする。 ・チームで攻め方を工夫したり、友達の良いところを取り入れたりとできるような授業づくりを行う。	・学習カードを活用し、適宜振り返りをさせ、頑張ったところや楽しかったことを確かめさせ、体育への意欲が持続できるようにする。 ・友達と称賛し合える学習活動を取り入れることで、自信をもって取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の導入で、主運動につながる動きや運動を取り入れていく。 ・課題の解決に向けて、スモールステップを意識した単元計画にすることで、こどもたち一人一人が実感を伴いながら、技能を高めることができるようにする。	・タブレット端末を活用したり、お互いに見合ったりする活動を通して、相互に良さや課題などを伝え合うことができるようにする。 ・アドバイスする上での視点を教師が提示する。	・各運動の良さや体を動かす楽しさを共有しながら学習を進めていく。 ・友達と称賛し合う活動や互いにアドバイスをし合う活動を取り入れることで、一人一人が自信をもって活動に取り組むことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各単元で身に付けるべき技能を明確にし、成功体験を積み重ねるとともに、主運動を応用した様々な運動の指導をしていく。 ・実態に応じた難易度で指導することで、知識や技能の獲得を実感できるようにする。 ・心身の発達段階や児童の実態に合わせた保健領域の知識を習得し、自身の生活に生かせるようにする。	・学習カードやタブレット端末を基に、自分の言葉や動作で、考えを伝え合えるようにする。 ・タブレット端末を活用し、それぞれが自身の学びを調整し、個別最適化の学びを進めていく。 ・自身の課題を把握して、その課題を解決するための手立てを見つけたり、友達同士で見つけ合ったりすることができるように進めていく。	・運動の楽しさ、各領域違いを共有しながら学習を進める。 ・運動をする・見る・知る・支えるといった様々な関わり方があることを知らせる。 ・児童の実態に合わせて、誰もが主体的に取り組むことができるようにする。 ・養護教諭と協力しながら、校内の保健室の使用状況などを授業で扱い、実態に合わせて、主体的に取り組むことができるようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
・「身近で簡単な事柄についての話を聞き、その内容を理解する」項目で、すべての問題の正答率が目標値を上回っている。ネイティブの発音や英語のフレーズを聞く機会を多く設定し、意味を推測しながら学習を行った成果と言える。	・アルファベットの読みや英作文の問題の正答率低かった。また無回答率が高かった。簡単な語句や基本的な表現を用いて文を書くことについては、各レッスン終了後、文を書く指導を行っているので、これを続けたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6学年	△昨年度と比べて、活用と書くことの正答率が高くなった。		

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・アルファベットのもつ音を学習している。天気、曜日、月、季節、数などの単語や教科書に出てくる基本的な表現を繰り返し練習している。	・大文字、小文字の判別ができるようになり、少しずつ書く練習をしている。基本的な表現を使った会話をペアやグループで行っている。	・動作、チャンツ、歌などを活用し、意欲的に発話しようとしている。ネイティブの発音を積極的に聞き取ろうとしている。
高学年	・日常会話の理解や会話全体の理解は、多くの問題で正答率が高い。授業でListeningに丁寧に取り組み、文章を見たり、読んだりしている成果と言える。	・英文の完成や英作文が十分でなかった中で、様々な英文に慣れ親しむ活動や、基本文を使って、自分の言いたいことを言う活動をもっと取り入れたい。	・主体的に学習に取り組んでいるが、発話の声の大きさなど、個人差や学年差がある。失敗を恐れず、発話したり、発表したりする雰囲気を作りたい。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	・あいさつやHello song、曜日、月、季節などの歌やチャンツを通して単語や表現を覚えるよう指導していく。また、動物や果物などの単語や、進め、下がれ、右へ、左へなどの方向の指示を理解したり活用できたりする。	・覚えた単語を使って、自分の好きなものや持っているものを英語で表現したり、欲しいものを表現したりする活動を取り入れていく。 ・単なる繰り返しだけでなく個人個人で言いたいことを英語で発表する場を設定する。	・歌、チャンツ、動作で英語を話す場を多く設定し、ゲームなどを取り入れて、主体的に学習に取り組めるようにする。
中学年	・大文字、小文字の判別がつき、その文字を読んだり、書いたりする活動を行う。 ・単元ごとに出てくる基本文を覚えるとともに、チャンツで英文を体得したり、語彙を広げたりできるようにする。	・単元ごとに、自分の思いを発表したりできるように指導していく。 ・単元ごとに、ネイティブの発話を聞いて、聞こえてくる英単語や英文、そしてその意味を理解できるように指導していく。	・単元ごとに出てきた表現を使って、友達と対話し、自分の思いを伝える活動を多く取り入れる。また、ICTを利用して英文と絵を入れたポスターを作成し発表することで、児童の個性や頑張りを称賛していく。
高学年	・アルファベットを書くことの正答率は目標値より高くなっているが、反面アルファベットを読むことや英文を書くことの正答率が低くなっている。語彙を増やすとともに、正しい文法を教えて、実際に英文を作って書く力を育成していく。単元ごとにテストを実施し、習った表現を定着させるようにする。	・英文の読み書きは、個人差がある。自己紹介や他者紹介のスピーチなどを通して、自分のことを表現する力を育成していく。定期的な発表を通して、自分の意見を伝える場を今後も設定していく。	・英語に対して苦手意識をもち、授業に集中できない児童もいる。小さな成長をほめながら、少しずつ自信をもたせるように指導していく。 ・塾に通っており、多少の英語を知っている児童の中にも、授業への取り組みが十分でない児童がいる。様々な指導方法でアプローチしていく。